

見つかった主な遺構

調査区北部で確認した土塁・堀は、高低差が最大で約6m以上あります。堀北側の土塁は、堀の掘削土を利用して幅広く整形しており、城道として利用されたと考えられます。堀・城道は屈曲させたり段差を設けたりすることにより、北からの侵入を防御する役割をしていると考えられます。さらに土橋と城道はL字に曲がっており、敵の侵入を遅らせる工夫がされています。土橋を通ると虎口に続きます。今のところ門などは見つかりませんが、何らかの施設は存在したものと考えられます。

調査区中央から南部にかけては、数条の土塁・溝が並んでいます。これらは新旧があると思いますが、表土が薄いこと、出土遺物がほとんどないことから、新旧はわかりません。ただし田辺城全体から推測すると、中央を直線的に存在する土塁・溝が城当時のものであり、弧状にめぐる土塁・溝は、後世に造られたものと考えられます。

土塁の内側は、道路跡と考えられます。幅約12~16mで、北端土塁の虎口・土橋につながります。また、道路東端には側溝と思われる溝が掘られています。土塁・溝が幅約3m途切れる場所があり、土橋と考えられます。西側には土塁が途切れた場所があり、2次調査で見つかった通路につながる虎口と考えられます。

出土遺物

今回見つかった遺物は、愛知県の瀬戸や岐阜県的美濃で焼かれた天目茶碗・播鉢、土師器の鍋などがあります。しかし遺物は大変少なく、小破片のもののみです。これまでの調査でも遺物は大変少なく、田辺城跡の特徴といえます。

そのほか、石鏃や線刻のある石も出土しました。



今回の発掘調査により、田辺城跡の北限を示す土塁・堀などは、大規模な土木作業を行っていることが明らかとなりました。北からの侵入を防ぐための工夫がされ、土橋や虎口が造られていることから、主郭のある南側だけではなく、北側も大手としての機能があった可能性が考えられます。

北端土塁の内側からは、建物跡などの遺構は見つかりませんでした。また、これまでの調査と同様遺物はほとんど出土しませんでした。これらのことから、城の縄張りにあたって主郭や周囲の土塁・堀などは厳重に造ったものの、屋敷地としてはあまり利用されなかったことが考えられます。

遺跡名 田辺城跡
原因事業 東海環状自動車道建設事業
調査委託 国土交通省中部地方整備局
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503
TEL:0596-52-1732/FAX:0596-52-7035 <https://www.pref.mie.lg.jp/MAIBUN/hp/>
いなべ整理所 〒511-0415 三重県いなべ市北勢町東貝野 454 番地
TEL:0594-72-8955/FAX:0594-72-8970

東海環状自動車道 発掘調査だより

(田辺城跡(第4次)発掘調査現地説明会資料) いなべ編 No.10

三重県埋蔵文化財センター

2020.10.31



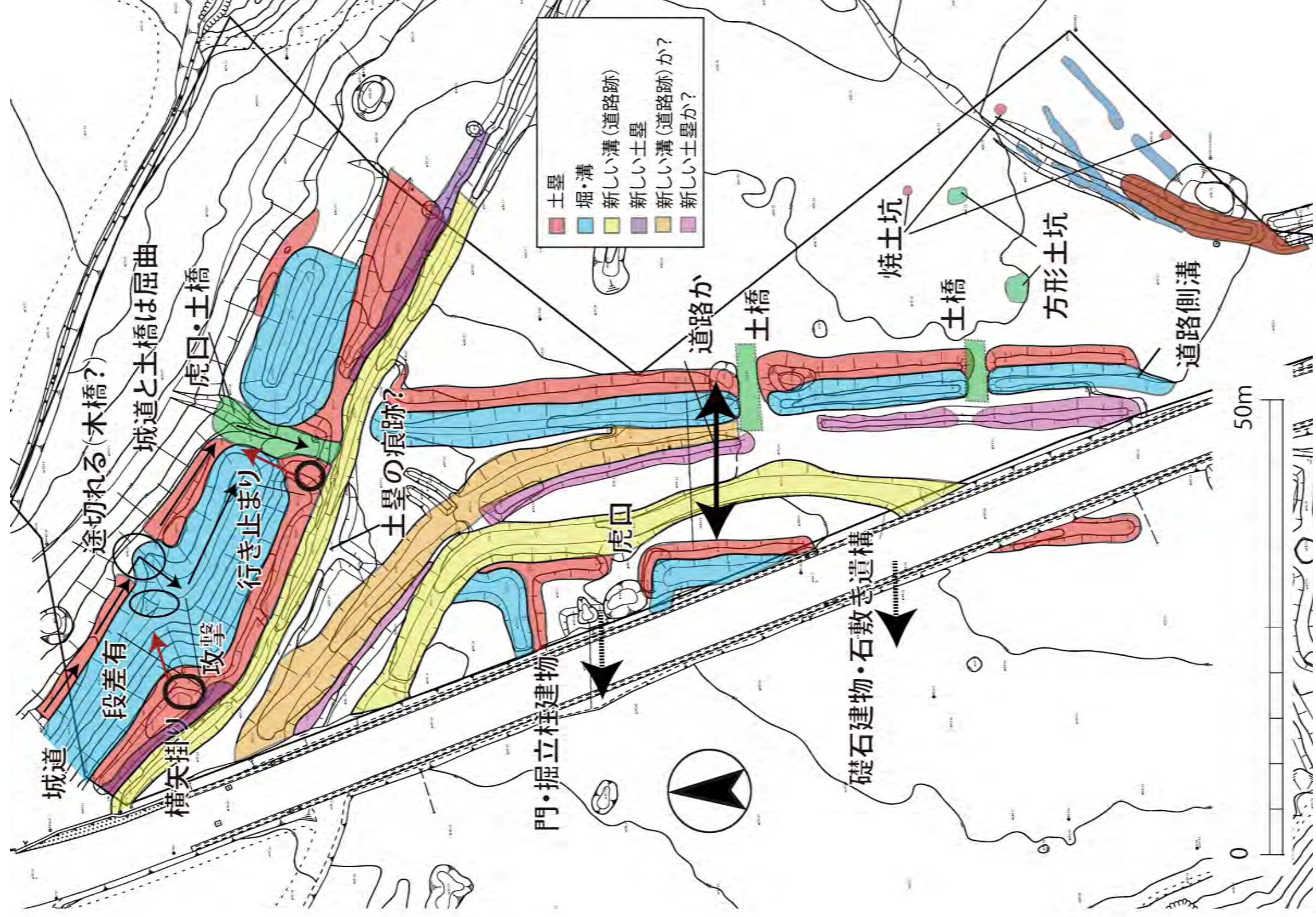
北端土塁・堀・土橋(東から撮影)

はじめに

三重県埋蔵文化財センターでは、平成29年度から東海環状自動車道建設事業に伴い、いなべ市北勢町田辺にある田辺城跡(たなべじょうあと)の発掘調査を行っています。田辺城は、天正14(1586)年に木造氏により築城されたと考えられる城ですが、詳しいことはわかりません。

調査地は、主郭から約400m北に位置しており、家臣の屋敷地が想定される場所です。これまでの調査では、土塁に囲まれた掘立柱建物や「蔵」と考えられる石敷き遺構を持つ屋敷地、礎石建物や石敷き遺構を持つ屋敷地、掘立柱建物や門を持つ屋敷地などがみつかりました。

今年度は、これまでの調査の東側を中心に、7,420㎡の発掘調査を行いました。調査前から土塁や堀の凹凸が明瞭でしたが、調査により、北からの侵入を防御するために大規模な土木工事が行われていたことがより明らかとなりました。



調査区北端 (東から)



調査区北部 (北から)



北端土塁・堀・城道 (東から)



虎口・土橋 (南から)



堀掘削風景 (東から)



調査区南部土橋 (南から)



調査区中央部道路跡 (東から)



焼土坑 (炭を多量に含み、壁面が焼けた土坑。1~3次調査でも複数見つかっています)